



# Les Amis de L'Orgue de Tokorozawa MUSE



松の内も明け、はやくも2週間が経とうとしていますが、新年のスタートはいかがでしょうか？  
私は、昨年の師走が非常にせわしなかったので、少しホッと一息…ついている余裕もなく、2月4日のリサイタル準備にフル稼働しております。今年こそは少しゆとりを持って過ごしたいと願いつつ。いつもこのオルガン通信を読んで下さっている皆様、本年もどうぞ宜しくお願い致します！皆様にとって、幸せ一杯の一年になりますように。

## ☆2月4日はモーツァルトと巡る欧州オルガンの旅♪

惜しくも35歳で生涯を閉じたヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト。

正直に告白しますが、実はワタクシ、ある時までこの音楽家の音楽がとても苦手でした。簡単そうに、軽快に飛び回っているようでいて、いざ自分が演奏してみると、ちっとも美しく響かないのです。それに『天才』とされている意味も、実際はあまりよく分かりませんでした。なんとお恥ずかしいことでしょう…。

しかしパリに留学して、エクリチュールという作曲技法を学ぶクラスに入った時に、モーツァルトの音楽を重点的に学ぶ時間がありました。それまで知らなかった、嵐のような荒々しさ、亡霊に取り憑かれたような恐ろしさ、天の声のような歌心あふれる美しさ、不条理にも似た悲しさ、全てがモーツァルトの音楽から聴こえてきたのです。それらを彼は全く躊躇う事なく、一度で楽譜に書き留めたといいます。しかも恐ろしい程のスピードで。バッハのそれともまた違う種類の、まさに神に撰ばれし天才なのでしょう。その頃から、すっかりこの人の音楽の虜になったのでした。



そんなモーツァルトがオルガンも見事に演奏したという事実は、残念ながらあまり脚光を浴びる事はありませんが、幼少の頃から父親のレオポルドに連れられてヨーロッパ中を演奏旅行で巡っていたモーツァルトが、各国のオルガンを弾いたという記録や書簡が随所に残っているのです。というわけで、今回のリサイタルではオルガン弾きであるモーツァルトの視点で、コンサートを構成できないだろうか、と思ったのでした。

さあ、今回のリサイタル、その聴き所はズバリ…

### ●オルガンの名手であったモーツァルトの姿に迫る

○若きモーツァルトが触れたオルガンを大スクリーンでご紹介

### ●モーツァルトが訪れた地で演奏されていたオルガン音楽を聴く

○豪華な共演者→ソプラノ澤江衣里さん&バリトン大山大輔さん

### ●晩年オペラ作品の秀逸アリアをオルガン伴奏で満喫

○この時代に流行した『自動オルガン』のための作品をオルガンで聴く！

では、その魅力を詳しくご紹介しましょう⇒

## ☆モーツァルトの生涯簡易年表☆



- 1756年 ザルツブルクに生まれる
- 1762年 父と姉とともに初めての演奏旅行（ミュンヘン）
- 1763年～1778年 演奏旅行で欧州各地を廻る  
(ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、イタリア他)
- 1779年 ザルツブルクの宮廷オルガニストに就任し、宗教音楽を多数作曲
- 1781年 ウィーンに移り、定住を決意する
- 1782年 父の反対を押し切りコンスタンツェ・ウェーバーと結婚
- 1786年 『フィガロの結婚』をウィーンで初演
- 1791年 『魔笛』をウィーンで初演。『レクイエム』の作曲に取りかかるものの、未完のまま病死

## ☆私にとってオルガンは楽器の王様です！ by モーツァルト

父親への書簡の中でモーツァルトはオルガンについてこの様に記し、訪れる先々で即興演奏をして人々を驚かせたと言います。ピアノのみならずあらゆる鍵盤楽器に精通していたのです。リサイタルの前半では、モーツァルトが実際に弾いたと伝えられるオルガンを大スクリーンで紹介しつつ、その地を代表するオルガン音楽もお聴き頂きます。

モーツァルトが弾いた代表的なオルガン：

1764年 フランス・ヴェルサイユ宮殿 礼拝堂

1766年 オランダ・ハーレムの聖バーヴォ教会

1770年 イタリア・ヴェローナ・聖トンマーズ教会 イニシャル有り

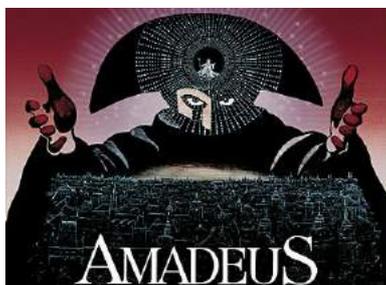
1778年 フランス・ストラスブール・聖トーマス教会 アンドレアス・ジルバーマン製作オルガン

その他、オーストリア・ザルツブルクの聖ペーター教会 チェコ・プラハの聖ニコラス教会、ほか



ストラスブール・聖トーマス教会のオルガン

## ☆モーツァルトに関連するお薦め映画 etc



モーツァルトや彼が生きた古典派の時代の事を知るために、二つのお薦め作品があります。一つ目は、1984年アカデミー賞受賞映画『アマデウス』。モーツァルトと親交のあった音楽家サリエリの視点で、モーツァルトの姿を描いた作品。彼の才能への嫉妬に燃えたサリエリは晩年に2度、モーツァルトを殺したと告白したとか。プラハなどで行われた豪華な撮影舞台はもとより、音楽監督のネヴィル・マリナーによる音楽もまた、この映画の魅力をひき立てています。昨年10

月に92歳で亡くなったマリナーが、妥協することなく音楽監修したこの作品、一度ご覧になってはいかがでしょうか？もう一つは、手塚治虫の漫画『ルートヴィヒ・B』。未完の絶筆なので、2巻までしか発行されていません。耳の病気や貴族との対立に苦悩するベートーヴェンの生き様が見事に描かれており、その1巻に若き天才モーツァルトと出会う印象的な場面があります。手塚治虫の漫画の中でも、最も好きな作品の一つで、古典派の時代の音楽家をめぐる事情も非常に良く書かれているので、本当にお薦めの作品です！

## ☆自動オルガンのための作品とは一体なにか☆

今回のリサイタルでも演奏する「自動オルガンのための作品」。これって一体なんなの？と思われる方も多いのではないのでしょうか？簡単に言うと、オルゴールの中身がオルガンのパイプとなった様な機構で、一番分かり易いのは右の写真のような手回しオルガンでしょうか。

実は、日本でもその響きを味わえる場所があるのです！清里にある「萌木の村オルゴール博物館」のオルゴール館には世界的に貴重な自動オルガンを見学、そしてその演奏も実際に聴く事ができます。ご興味のある方はぜひ足を運んでみて下さいね。

モーツァルトの生きた古典派の時代には、サロンを中心に音楽時計が流行していました。貴族や富裕層の人々が、館の中で開かれるサロンでその演奏を愉しむために置かれたのです。「自動オルガン」といっても、カッコウ時計のように時計のなかに自動オルガンを組み込んだ音楽時計や、家具などに組み込まれた大型のものまで、形状やサイズも様々です。余談ですが、フランスでも自動オルガンカフェというのがあり、以前私も連れて行ってもらった事があるのですが、広いホールに巨大な自動オルガンが何台もあり、お客達が飲み物を片手にオルガンの自動演奏に合わせてダンスを踊るといった面白い経験をしました。



モーツァルトは、亡くなる約1年前からダイム伯爵のミュージアムにある自動オルガンのために作曲するように依頼され、比較的大型の自動オルガンのために2つ（K.594とK.608）、そして小さな音楽時計のために1つの作品（K.616）を残しました。しかし運命の悪戯か、このオリジナルの自動オルガンは消滅してしまったのです。もしも残っていれば、モーツァルトの時代の演奏習慣を知る上でも、非常に重要なものであるだけに悔やまれますね。

今回のリサイタルでは、後半の最初に『自動オルガンのためのアダージョとアレグロ』へ短調 K.594 を演奏します。この作品は1790年に死亡したラウドン陸軍元帥を記念する展示会で流すために書かれた葬送音楽なのですが、それに相応しく悲壮感に満ちたアダージョの楽章が始まります。しかし、次のアレグロでは、ガラッと曲想を変え、生前の勇姿を讃えるかのような、軽快で爽やかな楽章が続きます。その後は最初のアダージョが再び顔を出し、見事なレクイエムが完成するのです。

モーツァルトの時代の自動オルガンを忠実に再現した楽器で、この作品が録音されているものを聴きましたが、アレグロの部分がそれは見事に（もちろん人間的なミスタッチもなく…!）、ケタタマシイほど華やかに響いていたのには驚きました。これはやはり機械仕掛けならではの響きと言えましょう。

では実際に、人間がオルガンで演奏するとどうなるのでしょうか??みなさま、演奏会当日をご期待下さい。



また、リサイタルの後半ではモーツァルトが慕った‘交響曲の父’ハイドンが音楽時計のために作曲した作品も幾つかお届けしますので、そちらも併せてお楽しみ頂きたいと思います。古典派の時代には、ベートーヴェンも自動オルガンのための作品を残していますので、当時この楽器が流行していた様子が想像できますね。

## ☆豪華共演者と共にウィーン時代の秀逸オペラ・アリアを☆

今回もまた、豪華な共演者が華やかに彩りを添えて下さいます。しかも、お二人ともなんと、東京藝術大学の同級生です。どちらも今最も勢いのある歌手の方々に、本当に心強い同級生に恵まれております。同級生トリオの共演を、ぜひお楽しみに！それでは、私からお二人のご紹介です。



**澤江衣里さん**：バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして古楽にも深い造詣を持ち、清廉で伸びのある美しい歌声の持ち主。東京藝術大学の博士課程まで修了され、イギリスの作曲家クイルターの研究でなんと博士号まで取得した才女なのであります。古楽だけでなく、歌曲やオペラの分野でも信頼の厚い澤江さんのモーツァルトに、是非ご期待下さい！

**大山大輔さん**：なんという貫禄！昔からとても凛々しく、九州男児らしい男気溢れる雰囲気です。表現力のある凛とした歌声、存在感、演技力、全てを兼ね備えた彼は、今や日本中引く手数多のバリトン歌手です。幅広い分野で活躍され、オペラはもちろん舞台などでもその名を広く知られています。本当に素晴らしいバリトン歌手です。



この豪華キャストで、オペラ『フィガロの結婚』の中からフィガロのアリア「もう飛ぶまいぞ、この蝶々」とスザンナのアリア「来て、ためらわないで、美しい喜びよ」を。『魔笛』の中からパパゲーノの「おいらは鳥刺し」と、かの有名な「パパパの2重唱」をお届けします。

モーツァルトを巡るオルガンの旅、これらのオペラ・アリアもあわせて、モーツァルトの世界を満喫できる盛り沢山の内容となっていますので、出演者一同、沢山の皆様のお越しを心よりお待ちしております♪

## ☆2月17日（金）は亀井優さんによる500円コンサート開催☆

2月4日のリサイタルに続いて、2月17日は『お昼どきパイプオルガンコンサート』が開催されます。今回は、大阪からオルガニストの亀井優さんをお招きします。そして特別ゲストとして、サクソ奏者の上野耕平さんをお迎えする事になりました。オルガンとサクソの共演、楽しみですね！

実はオルガニストの亀井さんもなんと私と同じ年。またまた親近感が湧きます。北ドイツの街リュューベックで研鑽を積み、現在は関西を拠点に演奏活動をされています。リュューベックと言えば、バッハも敬愛したオルガニスト、ブクステフデがオルガニストを務めた街で有名ですね。ドイツの骨太レパートリーはもちろん、留学先での秘話も聞けるのではないのでしょうか？！どうぞお楽しみに♪



1回目 10:30 開場／11:00 開演（終演 11:40 頃）

『0歳から聴ける親子向けコンサート！』

2回目 14:00 開場／14:30 開演（終演 15:30 頃）

『大人のためのオルガンコンサート！』

※2回目は未就学児のご入場はできません。

